

ぜん りつ せん 前立腺がん



前立腺がんは、前立腺肥大症とともに、中高年の男性において注意すべき前立腺の病気のひとつです。前立腺がんの発生には男性ホルモンが関与しており、加齢によるホルモンバランスの変化が影響しているものと考えられています。

ほかの臓器のがんとは異なり、ゆっくりと進行するため、早期に発見できれば、ほかのがんに比べて良好な経過が期待できるがんであるといえます。しかし、初期には自覚症状がほとんどないため、発見が遅れることがあります。進行すると最終的には骨やほかの臓器にまで転移することがあるため、早期に発見し、適切な治療を行うことが大切になります。

前立腺がんの症状

早期の前立腺がんには、がん特有の症状はありません。がんが進行すると、尿がでにくい、排尿時に痛みを伴う、尿や精液に血が混じる、などの症状がみられることがあります。さらに進行すると、がんが臀部と腰の骨を中心としたほかの部位にまで転移します。骨に転移した場合には、骨痛があらわれることがあります。

前立腺がんが増加している原因

前立腺がんは世界的にみた場合、非常に発生頻度の高い疾患といえます。とくに黒人、白人に発生頻度が高く、アメリカにおいては男性のがんの中で罹患数は1位、死亡数は2位ともっとも多いがんのひとつとなっています。

前立腺がんの増加の原因として、下の3つが挙げられます。

日本人の高齢化



前立腺がんは主に60歳以上に多くみられ、とくに80歳以上では半数以上に潜在性の前立腺がんがあるといわれています。そのため、日本人の高齢化に伴い、前立腺がんの患者さんが増えてきているのです。

食生活の欧米化



かつて穀類、豆類などの食生活を中心としていた頃は、日本人には前立腺がんはほとんどみられませんでした。しかし近年の食生活の欧米化に伴い、動物性脂肪をたくさんとるようになったことが、前立腺がん発症に何らかの影響を及ぼしていると考えられています。

PSA検査の普及



近年、PSA検査によって、直腸内触診や超音波検査では発見することが難しかった、症状があらわれない早期のがんをみつけることができるようになりました。

PSA検査とは、どんな検査？

前立腺がんの可能性があるかどうか分かる

PSA検査は、スクリーニング検査のひとつです。スクリーニング検査とは、前立腺がんの可能性のある人を見つけるための検査のことです。

採血による検査

前立腺がんの診断では、まず血液検査で血中PSA値を調べます。PSAとは、前立腺特異抗原というタンパク質分解酵素のことで、前立腺がんや前立腺肥大、炎症があるとPSAの分泌腺が壊れて血液中にPSAが大量に漏れ出します。このため血中PSA値が高くなる場合は、前立腺がんに限らず「何かの病気や異常がある」可能性が疑われます。



お元気でですか？

10月



坂出市
愛育会